

「江戸川区外来カミキリ防除プロジェクト ～早期発見で被害をゼロに～」

野生動物保護専攻2年

大浦由翔 金原友紀 小宮洸 清水朱璃 比氣楓 雪下華菜子

<目的>

2012年にクビアカツヤカミキリが愛知県で初めて確認されて以降、現在も全国的に被害が拡大し続けており、2018年1月15日には特定外来生物に指定された。また同種はサクラやモモ、ウメに影響を与え、被害が大きくなった場合には切り倒すことを余儀なくされる。そのため今回、私たちは江戸川区内においてクビアカツヤカミキリの生息状況や被害を調査し、今後の対策を検討することを目的とした。

<対象>

- ・学名 *Aromia bungii*
- ・分布 中国、モンゴル、朝鮮半島、ベトナム北部
- ・体長 25～40 mm
- ・生態 孵化した幼虫は、すぐに樹皮に穴を開けて樹木内部に侵入し、主に樹皮直下の材を食害していく。その際「フラス」と呼ばれる食べた木屑と糞の混合物を排出する。6月頃に樹木の外に脱出した成虫は、その当日に交尾が可能で、脱出して2～9日後から産卵を開始する。基本的に昼行性でクヌギなどの樹液に集まることなどが報告されている。

<方法>

【調査】

- ・場所 江戸川区内の公園または緑地（小松川千本桜等の桜の名所を含む）
- ・期間 成虫 2023/7/9～22 幼虫 2023/8/13～26 2つの期間ごとに各2回、計4回調査
- ・時間 クビアカツヤカミキリの活動が活発になる日中の時間帯
- ・手段 徒歩、2人以上での目視

【発見した際の対処】※江戸川区から指定された方法

- ・成虫 成虫を見つけ次第、江戸川区役所に連絡。後に区役所または自身にて駆除
見つけた場合、靴の裏で踏み潰す、またはビンに入れ酢酸エチルにて駆除
- ・幼虫 幼虫の痕跡(フラス)を見つけ次第、江戸川区役所に連絡

【対策】

- ・地域住民及び本校の学生に対するクビアカツヤカミキリについての知識の普及と調査への協力の呼びかけ
- ・江戸区役所、東京都庁に向けた提案書、調査報告書の作成及び提出
- ・他専攻の学生への普及、啓発
- ・本専攻の1年生へのプロジェクトの引継ぎ

<結果>

28日間で計4261本のサクラ、118本のウメ、48本のアンズ木を調査した結果、公園、緑地等の公共エリアでは、目視した限り成体、フラス共に発見できなかった。また、フラスのようなものは見つかったが、本種の痕跡ではなかった。対策に関しては、東京都庁及び江戸川区役所に調査に関する報告書と、今後のクビアカツヤカミキリへの対策に向けた要望書を提出した。

<展望>

- ・今回の調査では、江戸川区での発見は確認されなかったが、近隣の江東区、足立区、葛飾区では被害が出ているため継続的に観察を行う
- ・来年以降の調査方法については、民有地での実施や調査範囲の拡大を試みる。
- ・行政にクビアカツヤカミキリの駆除等の認知に向けた啓発の協力を、より積極的に行ってもらえるよう依頼する。それに伴い、地域住民によるクビアカツヤカミキリへの興味関心をより高めてもらうよう今後も努める。

<協力>

日本生態系協会 森林総合研究所 森林昆虫研究領域昆虫生態研究室